

人間と動物の関係史 ー出土する骨から見た動物とのつきあいー

2018.5.19 新美倫子（名古屋大学博物館）

○動物考古学の仕事

発掘するのは主に貝塚ー動物骨が残っているから

なぜ骨が残る？ どんなふうに出土する？

出土したのはどんな動物のどこの部分？←現生標本と比較して分類

「何を食べたか・何を飼っていたか」がわかるだけでは、つまらない
→では、どうするか

○イヌについて

日本における人とイヌとの関わり

縄文時代：イヌの墓

弥生時代：状況が一変

その後・・・イヌの世界も格差社会へ

出土したイヌの骨のここに注目！

頭蓋骨には情報がつまっている：ストップ・全体の大きさ・^{きょうこつ}頬骨・^{ふんぶ}吻部
身体の大きさ：^{たいこう}体高

○イノシシ・ブタについて

縄文時代・・・狩猟したのは主にシカとイノシシ。シカとイノシシは半々程度。

弥生時代・・・縄文時代と同様に狩猟をしたが、なぜか急にイノシシの出土量が増えてシカの数倍に。

↓

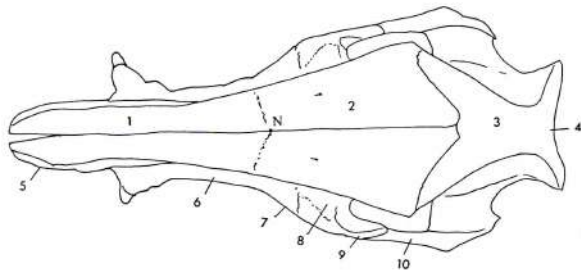
下郡桑苗遺跡（大分県、弥生時代）から出土したイノシシの頭蓋骨

→骨の形をよく見たらブタだった！弥生時代にブタがいた。

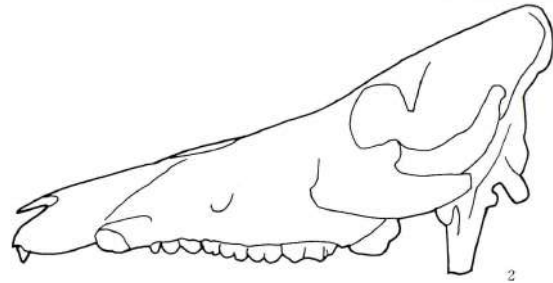
↓

他の弥生時代の遺跡から出土した骨も見直してみたら、ブタがたくさん混じっていた。

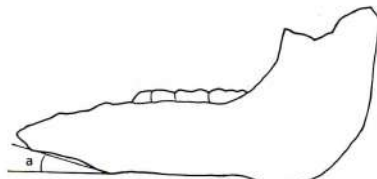
イノシシとブタ どこが違う？（図はすべて西本 1991・1993 より）



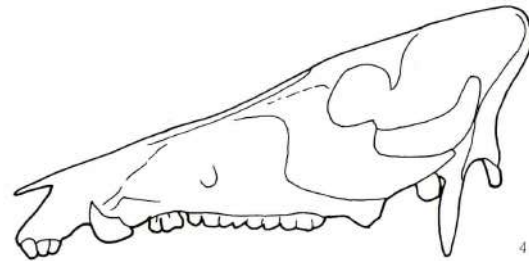
イノシシ頭蓋骨（上から）



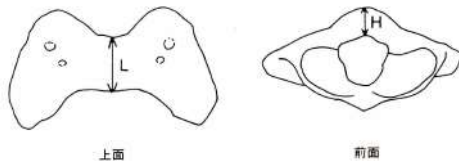
弥生ブタ



弥生ブタの下顎骨



現生イノシシ



イノシシ類の第一頸椎

西本豊弘 1991「弥生時代のブタについて」国立歴史民俗博物館研究報告 36
1993「弥生時代のブタの形質について」国立歴史民俗博物館研究報告 50

○ニワトリについて

日本で飼育されるのは弥生時代から

どの時代もニワトリの骨がたくさん出土するわけではない

→江戸時代には多様なニワトリが大量に出土

最古のシャモの骨が出土？